

物価高騰から生活を高める大幅賃上げ、震災復旧・復興と社会保障の拡充を 労働組合のバージョンアップで勝ちとろう

私たちは第69回臨時大会を開催し、物価高騰を上回る大幅賃上げ・底上げを勝ちとるため、2024国民春闘を全力でたたかう方針を確立した。方針では、たたかいの柱に「3つの要求」を掲げ、その実現を図るための戦略として「4つのアプローチ」をたたかいの基調にし、2つのキャンペーン（最低賃金全国一律制への法改正キャンペーン・ジェンダー平等推進キャンペーン）と非正規春闘を掲げて奮闘することを確認した。

四半世紀に及ぶ実質賃金低下のもと、歴史的な物価高騰が労働者・国民の生活を襲っている。全労連と愛労連は昨年春闘で、四半世紀ぶりとなる6000円台の賃上げを引き出し、公務員賃金闘争では、公務・民間共同のたたかいで近年にない約1%のベアを勝ちとった。最低賃金では、全国一律1500円以上を求め、過去最高の時給43円(4.5%)の引き上げで全国加重平均も1000円を超える到達をつくった。「たたかう労働組合のバージョンアップ」で積極的にストライキを構え、愛知でも19職場203人がストライキに立ち上がり、社会的にも強いインパクトを与え、たたかってこそ引き上げられることを示した。

欧米をはじめ、世界の労働者が猛烈な物価高騰や人手不足から職場と生活を守るためにストライキに立ち上がり大幅賃上げ・待遇改善を勝ちとっている。日本でもそごう・西武労組のストライキをはじめ、私たちのたたかいが労働組合への期待をひろげている。

年明けから経団連は、「賃上げ決意は前年以上」と発しているが、経営者都合による賃上げでは私たちの生活を改善するものにはならない。労働組合がストライキなど、あらゆる戦術を構えて交渉に挑んでこそ大幅賃上げが実現できる。2024春闘では、昨年を上回るストライキや統一闘争を発展させ、6年ぶりとなるトヨタ総行動決起集会に結集し労働組合主導の賃上げを勝ちとろう。

保育者が保護者とともに声を上げた「子どもたちにもう1人保育士を！」の運動が山を動かして7年ぶりの配置基準改善を勝ちとった。当事者が過酷な実態を可視化し、保育士を増やすことが子どもの人権と発達を保障することだと発信してきた成果である。

能登半島地震における復旧・復興においても新自由主義のもとで押しすすめられてきた公務員の削減・民営化と非正規化が公共の力を低下させ住民の命と生活を脅かしていることが露呈している。自らが声を上げて実態を明らかにし、住民や利用者との共同で公共を取りもどすたたかいをすすめよう。

岸田政権は、軍事費を2倍化する大軍拡路線を強行し、物価高騰に苦しむ国民に増税と社会保障改悪を押しつけ、改めて総裁任期中の改憲にも意欲を示した。いま必要なことは震災に苦しむ被災者支援と復興であり、解散総選挙で憲法を国民のくらしにいかす政治への転換である。

5万人愛労連めざし、いつでも私たちの要求と労働組合を可視化し、「要求を実現するためにあなたも一緒に労働組合で」と呼びかけ、組合員を増やすことによって要求を実現しよう。

2024年1月21日

愛労連第69回臨時大会